

平成27年度農との共生田園都市豊かなくらし満喫事業中間報告

事業主体名：岩殿満喫クラブ

〔活動地域の概要〕

- 1 活動地域：東松山市岩殿地区（岩殿A・B・C地区・青木ノ入畑）
- 2 利活用する田園資源：谷津田（雑木林・ため池・田んぼ）
- 3 協働する団体名とその概要：岩殿・入山田んぼの会
岩殿・入山地区の耕作放棄地再生に同意し支援する地権者と地元農家の会

〔活動の内容〕

1 地域の課題と目的

東松山岩殿地区では、農家の高齢化や米価の低下などにともない、耕作条件が悪い谷津田は耕作放棄地が拡大している。こうした谷津田は景観的、文化的、また生態学的に価値が高い里山の構成要素として保全価値が高い農地である。

谷津田の耕作放棄が進む一方で、自らの農地を持たない非農家の市民の中には、自ら農業を営んで安全で安心できる食料を自分で作ってみたいという自然・環境志向の人々が存在する。こうした人々の中には市民農園で家庭用の野菜栽培などを行う人々もいるが、米作りが行えるような市民農園はほとんど存在しないのが現状である。

そこで、谷津田を「市民田んぼ」として再生し、安心して食べられる自家用のコメを美しい自然景観の中で自ら作ってみたいという市民のニーズと結びつけることで耕作放棄地を少しでも解消し、貴重な里山環境を保全し、次世代により良い環境を伝え、安らぎのあるまちづくりに貢献することを目的とする。

2 活動概要

- ①昨年度までに再生した農地を維持・管理する。5枚の田んぼで稲作を行う。転換畑では年間を通じて緑肥を栽培し土壌改良を図る。水路の修復・整備する。農作業と土木工事の一部は岩殿入山田んぼの会農家（地権者）に作業を委託する。
- ②再生した農地に隣接する藪化した耕作放棄地の除草・灌木の除去と山林・雑種地の裾刈りを行い雑木林から田んぼに続く草地の再生を目指す。
- ③大東文化大学国際関係学部須田ゼミの農業実習支援を続行する。
- ④東松山市の市民環境会議発表、環境未来フェア出展、地図や空中写真で学ぶ岩殿地元学講座、落葉掃き体験・堆肥場づくりイベントなどを通じて、谷津田の耕作放棄地再生の意義と岩殿市民田んぼ事業のアピールを行う。

〔活動の成果〕

- ①田んぼ2枚と畑1枚を再生（岩殿B地区）、春・夏緑肥栽培（B地区）
- ②A・B地区に接する耕作放棄地・雑木林の草・灌木刈払い、裾刈り実施。
- ③岩殿A・青木ノ入の畑の実習支援、ゼミ時間外に学生ボランティアの参加を得る（10月27日『埼玉新聞』記事）。
- ④市民環境会議事例発表（6月21日）、環境未来フェア（10月10日）に出展し活動をアピール。比企の川づくり協議会の協力を得て溜池・水路の水質測定実施（8月、10月）

〔今後の取組〕

- ①来年度の作付けに向けて水路の改修（C地区）を行う。
- ②岩殿C地区隣接の耕作放棄地の草・灌木の除去。

③12月上旬に里山再生ボランティア養成講座（刈払機講習会）を実施し、学生ボランティアも刈払機が使えるようにする。

④11月28日岩殿地元学（地図や空中写真で学ぶ岩殿の土地利用の変遷）や落葉掃き体験・堆肥場づくりイベント（1月）を実施し、地元農家・市民との交流を図る

〔活動写真等〕



春の緑肥をまく (3/23)



斜面の裾刈り (4/7)



ゼミ実習始まる (4/16)



笹藪の刈払い (4/22)



隣接林の刈払い (4/26)



畦畔補修 (4/28)



青木ノ入畑種まき (5/7)



アライグマ捕獲 (6/1)



夏の緑肥播種 (6/2)



殿山共同農場と交流 (6/6)



須田ゼミ麦刈り (6/11)



事例発表 (6/21)



学生ボランティア参加 (6/29)



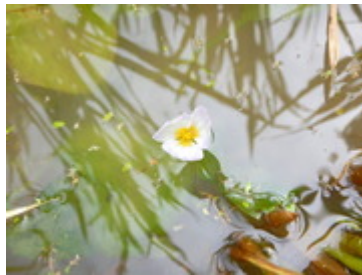
殿山共同農場との交流 (7/11)



ウスバキトンボ羽化 (7/31)



溜池と水路の水質調査 (8/21)



ミズオオバコ(8/24)



大雨で池が埋まる(9/15)



緑肥クロタリアア開花(9/24)



A・B地区稲刈り(10/01)



環境みらいフェア(10/10)

2015年(平成27年)10月27日(火曜日) 埼 五 新 聞

稲刈りの後、ハンディ掛けをする学生たち『東松山市岩殿』



谷津田稲刈り 大学生ら応援 東松山 東松山市の谷津田の保全活動に取り組み岩殿満喫クラブ(稲田滋夫代表)は、市内の大東文化大学国際関係学部の学生の応援を得て、岩殿にある2面の田んぼ約1千平方メートルを10人で稲刈りした。作業後は稲を天日干し、おいしく

する稲わらのハンディ掛け(当地の呼び方)も行った。大東文化大の学生は田植えや草刈り、畑の耕作、そば・里芋植えにも参加しており、この日の休憩に出た枝豆も学生たちが植えた。学生の手伝いは、須田敏彦国際関係学部教授のゼミ生が4年前に始めた。須田教授は「これからの農業は自然破壊をしない方法で進めるべき。学生には実際に土を踏み草を刈って農業体験することで学んでほしい」。同学部2年の高木修平さん(19)は「1年間とても貴重な体験ができた。休憩の時、満喫クラブの人や農家の方からの話が聞けたのもとてもためになりました」と話していた。(タウン記者・山本正史)

